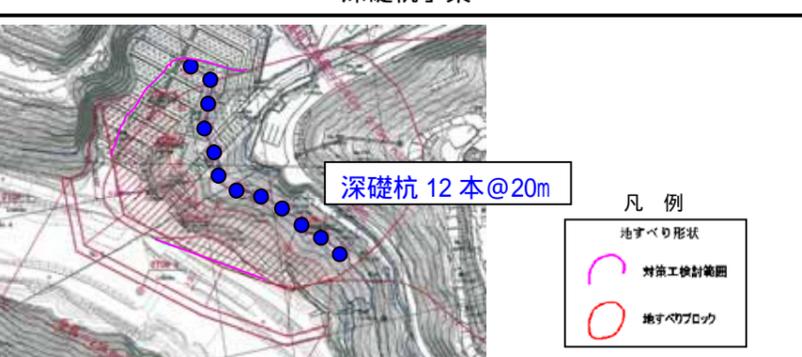
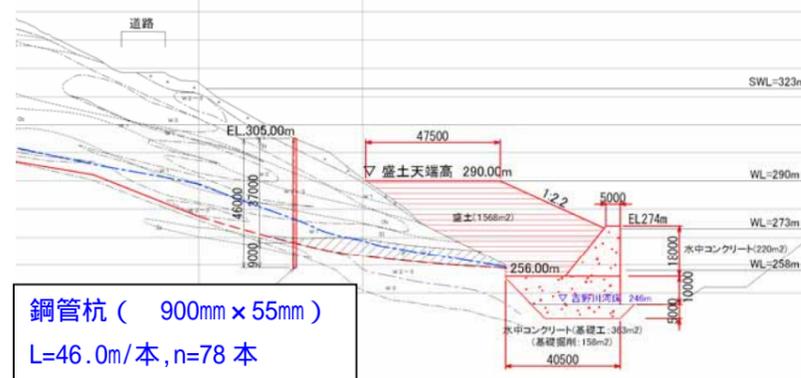
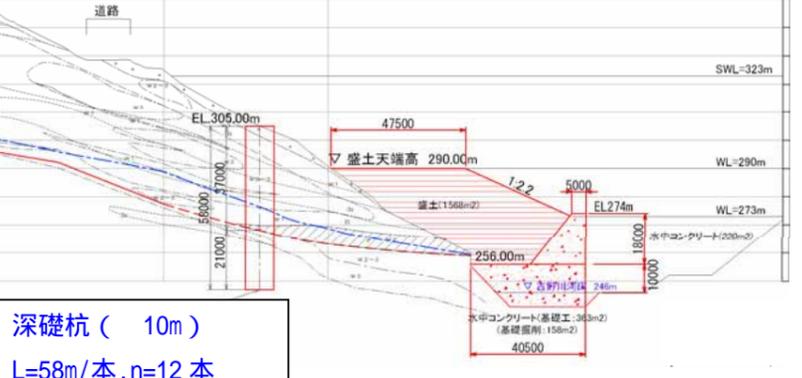


§2 大滝地区貯水池斜面对策の検討

事項	要点		備考										
2-4-3【3次選定】 抑止工の選定	<ul style="list-style-type: none"> ・1次選定において選定された「鋼管杭」と「深礎杭」について必要抑止力に応じた対策工仕様を算定した。 ・この結果、大滝地区の抑止工としては、施工時の振動、騒音などの観点から「鋼管杭」が適切と判断される。 												
表 2-4-7 抑止工の比較													
平面図	<p style="text-align: center;">「鋼管杭」案</p>  <p style="text-align: center;">鋼管杭 78 本@3m</p>	<p style="text-align: center;">「深礎杭」案</p>  <p style="text-align: center;">深礎杭 12 本@20m</p>	<p>「護岸擁壁 + 土砂案」タイプ時における抑止工の必要抑止力</p> <table border="1" data-bbox="2522 546 2819 798"> <thead> <tr> <th>抑止工で確保する安全率</th> <th>抑止工に対応する必要抑止力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.00</td> <td>8,100kN/m</td> </tr> <tr> <td>1.05</td> <td>5,300kN/m</td> </tr> <tr> <td>1.10</td> <td>3,700kN/m</td> </tr> <tr> <td>1.15</td> <td>2,400kN/m</td> </tr> </tbody> </table>	抑止工で確保する安全率	抑止工に対応する必要抑止力	1.00	8,100kN/m	1.05	5,300kN/m	1.10	3,700kN/m	1.15	2,400kN/m
抑止工で確保する安全率	抑止工に対応する必要抑止力												
1.00	8,100kN/m												
1.05	5,300kN/m												
1.10	3,700kN/m												
1.15	2,400kN/m												
横断面図	 <p style="text-align: center;">鋼管杭 (900mm × 55mm) L=46.0m/本, n=78 本</p>	 <p style="text-align: center;">深礎杭 (10m) L=58m/本, n=12 本</p>	<p>抑止杭(鋼管杭、深礎杭)設置標高の根拠 (詳細:2-6 参照) 有効抵抗力 杭として抵抗力が得られる 配置可能範囲の検討</p>										
仕様	必要抑止力: 5,300kN/m (安全率 1.15 を確保するための必要抑止力) 設置標高: EL.305m 施工延長: 234m 鋼管杭諸元: 径 900mm 長さ 46m 肉厚 55mm 必要本数: 78 本@3m	必要抑止力: 5,300kN/m (安全率 1.15 を確保するための必要抑止力) 設置標高: EL.305m 施工延長: 234m 深礎杭諸元: 径 10m 長さ 58m 必要本数: 12 本@20m	<p>はね上げ検討 はね上げを起こさない位置</p>										
適用	周辺環境に配慮した施工とした場合、騒音、振動、工程面等から「鋼管杭」案が適切と判断される。		<p>杭長検討 杭の長さが短くなる位置 設置標高の決定</p>										
注)「護岸擁壁 + 土砂案」タイプで抑止工により安全率を 1.05 まで確保した場合													